United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

平成２７年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成２７年４月～平成２８年３月

１．学校概要

学校名　石川県金沢市立扇台小学校

種　別　☐保育園・幼稚園　☑小学校　☐小中一貫教育
☐中学校　☐中高一貫教育　☐高等学校
☐教員養成　☐技術/職業教育
☐特別支援学校　☐その他（　　）

所在地　〒９２１－８１４１
石川県金沢市馬替１丁目３４

E-mail　ougidai-e@kanazawa-city.ed.jp

Website　http://cms.kanazawa-city.ed.jp/ougidai-e/view.php?pageId=1027

児童生徒数　男子　206　名　女子　191　名　合計　397　名
児童・生徒の年齢　6　歳～　12　歳

２．実施活動（複数選択可）

☐　地球規模の問題に対する国連システムの理解
☑　国際理解
☐　世界遺産
☐　平和・人権
☑　環境
☐　気候変動
☐　生物多様性
☐　エネルギー
☐　防災
☐　食育
☑　伝統文化
☐　そのほか（　　）

３．活動内容

１　ユネスコスクールとしての取組

【第３年学年の実践より】

テーマ：ぼくらは町のたんけんたい

地域から“名人さん”を探し出し、その技を体験させていただく活動を行った。本年度は「書道」「瓦ふき」「ウクレレ演奏」「台湾文化」「茶道」「水墨画」に長けた“名人さん”に来校していただき、体験を通してそれぞれの技に触れる貴重な機会を得ることができた。

児童は、この活動を通して“名人さん”が身に付けている技に感動を覚えただけではなく、そのような技を体得している方へ尊敬の念を持ち、また素晴らしい技を身に付けた方々が暮らす地域そのものに愛着を感じることができたようである。

この“名人さん”を探し出し技を体験させていただいた活動は、学んだことを他へ伝える“扇台発信”の題材としても発展的に扱った。

特に茶道体験では、茶道や和菓子について本や図鑑などを使って調べ、金沢で茶道が盛んなのは加賀藩とのかかわりが深いこと、また金沢ならではの和菓子の風習を知り、伝統ある本市の歴史についてその価値を考える機会となった。

【第４学年の実践より】

テーマ：ホタルが住みよい環境について考えよう

本校には中庭に“ホタル飼育小屋”がある。例年第４学年がその飼育を受け継いでおり、本年度も継続して取り組んだ。ホタルの成虫を見たことはあっても、飼育する体験は初めてである。顕微鏡で観察するくらい小さい幼虫から、エサやりや水かえ観察日誌の記入など、夏休みも休まず行った。

児童にとってこの活動は、「ホタルにも人にも住みやすい環境」について考える機会にもなった。そしてホタルの生命のはかなさ、それでもつながっていく命の重さを感じたようである。さらに、ホタルが住みよい環境を作っていくのは自分達であることを自覚し、保護者と他学年に向けてホタルの一生や育て方、ホタルが住みやすい環境を維持していく必要性などを、“扇台発信”の題材として他へ伝えることができた。

【第５学年の実践より】

テーマ：よりよくしよう！わたしたちの高橋川

校区を流れる高橋川を題材に、その環境や川に関する人々の暮らしに着目して学習を進めた。まずは、高橋川の実態を知るため川掃除と水質調査に取り組んだ。これに加えて、昔の高橋川の様子を地域の方々にインタビューする活動を行った。

これらの活動によって、洪水を防ぐための護岸工事によって高橋川が姿を変えたこと、かつてはホタルが住む川であったことを知り、身近なことから環境問題について考える機会となった。また、地域の方々への聞き取り調査は、夏の地域行事として参加している「扇台川祭り」の始まりを知ることになった。高橋川から地域の歴史と人のつながりを感じることで、この環境と歴史を守ろうとする自覚が児童に芽生えた。

【第６学年の実践より】

テーマ：夢のコンサート～自信と誇りとつながりを～

本年度も、校内の集会を始めに、校区の公民館や老人ホームなど、様々な場面や場所で演奏活動を行った。最高学年のこのような演奏活動は、下級生にとってあこがれの姿として定着してきている。

演奏活動の過程では、様々な国の楽曲や楽器を扱うことで、その国の文化にもふれる機会になった。

また、一人一人の音が重なり合って一つの曲が完成することを経験することもできた。このような協同的な活動経験は、自分がみんなにとって大切な存在であると同様に、自分の隣にいる友達もまた大切な存在であることを、体感的に理解する機会になった。

さらには、演奏を聴いていただく人々との関わりを通し、自分達を支えてくれている家族やこれまで様々なことを教えて下さった方々への感謝の気持ちを持つことができた。

２　成果と課題

成果の一つに、児童に主体的かつ能動的な学びの姿が見られるようになって来たことが挙げられる。地域の人材を活用した体験的活動を中心にすえた学習が、活動を好む傾向にある本校児童の意欲を引き出したのだととらえている。身近なものが題材であれば、日常の生活経験からその題材に関して何らか知識を得ているはずである。この既存の知識を活用することで自分なりのものの見方や考え方ができ、意欲が喚起されたのだろう。持続可能な開発のための教育という観点から、知識を活用・応用する経験を積ませる良い機会を得ることができたと考えている。

二つ目は、児童の地域への愛着が強まったことである。本年年度の実践には、どの学年にも地域の“人・もの・こと”と関わる活動が組み込まれている。これらと関わることによって、校区や金沢市など、自分たちが暮らす地域に関して、様々な伝統や文化・自然・歴史について学ぶ機会を得ることができた。この学びが地域への誇りと愛着という心情につながったと考えている。これは、より良い社会の形成に参画する資質と能力の育成に寄与する活動だととらえている。

一方、課題も残されている。

一つは、自分たちなりにできる社会貢献を児童に意識させる必要を感じている。例えば、環境問題に取り組み、現状を理解して自然環境の維持や保全の必要性を感じたとしよう。持続可能な開発のための教育としては、その必要性を感じているだけでは不足であり、自然環境の維持や保全に向けて自分なりに一歩を歩み出すような、児童自身からの働きかけが必要である。本年度の実践では、他学年や全校生徒また保護者へ向け、どの学年も“扇台発信”という形で発表している。しかし、その発表を行う児童の意識は、学んだり考えたりした内容を伝えることに重きが置かれているのが実態である。伝えたいという児童の意識を否定するわけではないが、その意識が目的化してしまわないよう、よりよい社会を創造するための活動の一つとして行っているという意識付けが必要だと考えている。

いま一つは、実践内容の見直しが必要な部分があることだ。地域の環境も徐々に変化しつつある。また、他校との交流や小中一貫教育を考慮にいれてカリキュラムを見直す必要にも迫られている。

（２）活動時間について（下記から選択して下さい。）

☑　通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
☑　時間外活動の時間を使用
☐　ユネスコクラブの活動として実施
☐　その他（　　）